

くるみ

THINK & TALK

神と花と国際交流

ご崇敬者訪問

こんにちは、笠間稲荷です！





年頭にあたりまして、謹んで皇室の弥栄と国家の安泰、氏子崇敬者の皆様の平安をお祈り申し上げます。

本年、平成二十三年は笠間稲荷神社、御創建一三六〇年の佳年にあたります。これほどの長きに渡り、多くの方々に崇敬の念をお寄せ頂いてきましたこと、改めて感謝申し上げます。

笠間稲荷神社が御創建されたのは、白雉二年（六五一）、孝徳天皇の御代です。この時代は、日本書紀によると始めて元号（大化）が用いられた時代です。この時代は、中大兄皇子（後の天智天皇）、中臣鎌足による「大化の改新」があった時代、つまりは大きな変革が行われた時代であると言えます。物事が変化を迎えるとき、どうしても不安定になりがちですが、そういつたときこそ、心の支えが必要でした。一つ前の「昭和」の時代、この時も日本は大きな変化を迎えました。大戦直後、国土が戦勝国の実質的な占領下に入るなど、国はまさに混乱期にあったと言えます。ただ、その後、日本は官民の努力もあり驚異的な復興を遂げ、世界有数の国家となりました。そして、この復興に際し、国民の心の支えであったのは昭和天皇であられたと言えます。昭和天皇は、国内各地

混乱期こそ 尚、天皇陛下を仰ぐ

笠間稲荷神社

宮司 塙 東 男

を巡幸され、戦後疲弊した国民を励まされました。精神的にも戦後復興の大きな一助となったことは疑いようありません。

この様に、日本の歴史は危機的な状況が生じると必ず、天皇陛下を仰ぐことによりその状況を打破してきました。江戸末期から明治にいたる武家社会から近代社会への変遷も同様です。

現在、日本をとりまく状況は、国民の多くを不安に駆り立てることばかりです。ただ、このような状況下だからこそ、天皇陛下を仰ぎ、日本の歴史・伝統を重んじ誇りある祖国をつくる努力が必要です。陛下はただ、国民の幸福と平安を祈られておられます。陛下の御心に応え、思いやりの心と道徳心を高め、助け合い協力しあえば、今起っている様々な問題は解決につながると考えます。

最後に、茨城出身の明治維新尊皇の志士、佐久良東雄が「恋闕の心」詠んだ歌を紹介します。

「天皇につかへまつれとわれを生みし吾がたちねぞたふとかりける」

第25回

神と花と国際交流

華道家／假屋崎省吾 氏
笠間稲荷神社 宮司／塙 東 男

花が結ぶ

世界の心

菊を愛でる街、笠間

塙 今年も菊まつりに素晴らしい作品をご奉納いただき、ありがとうございます。假屋崎 毎年この日をとてもうれしく思っています。

塙 皆さん楽しみなさつております。今年の作品は竹の力強さと菊の繊細さのバランスが美しく、また一つ一つの花が自分の存在を強く主張するのではなくお互いに支え合っている姿に、日本人の持つ和や、今の国際社会に必要な共存共栄の大切

さを感じました。

假屋崎 竹も笠間の方々が協力して伐ってくださいました。笠間は街自体に菊を愛でる雰囲気があり、笠間のお稲荷さんが菊まつりや菊人形展をずっとなさっていらつしやるわけで、日本三大稲荷の一つですから、全国からたくさんの方が見えています。菊の花を通しての文化交流や、世界の国や人々と交流できるのはとてもすてきなことです。

笠間稲荷神社 宮司
塙 東 男

花という「国際語」

塙 世界との交流という意味では、假屋崎先生は海外でのご活躍が多いですね。

假屋崎 一昨年暮れから正月にかけては上海で過ごし、五月には、チューリップ大使に任命されて、年に二カ月だけ開放されるオランダのキューケンホフ公園のチュー





リップ畑に行き、八月はハノイで日本・ベトナム友好の個展をさせていただきました。十月にはローマ国際映画祭で、世界中の映画関係者やスターが歩く三十六メートルのレッドカーペットに、竹を八〇〇本、シンビジュム八〇〇本でインスタレーションをして世界中に発信されました。暮れはクリスマスから

パリのプティ・パレ宮殿で大個展の仕事と、昨年は海外の仕事ばかりでした。

塙 フランスでは、モネの邸宅に花の庭づくりをされました。

假屋崎 モネはジャポニズムと呼ばれる浮世絵や陶器などの日本の文化に憧れて、フランスの片田舎のジヴェルニーに日本を彷彿とさせる庭園をつくりました。その庭で、十日あまり皆さんと一緒に生活して、早朝の四時、五時に起きて夜中の十時、十一時くらいまでずっと庭作業に追われました。

塙 当社は菊まつりでドイツと交流しています。

假屋崎 どんなふうになさってるんですか。

塙 ラー市という街の菊まつりに協力しています。街のコーナーが

開放され、与えられたテーマのもと、ラー市が用意した菊花を中心に、市民の方々も花をもちより、自分たちで菊の花を中心にして花壇をつくります。なかでも当社の鳥居を模して設けられた日本庭園式の一区画には多くの人が立ち止まり、国際交流の一端を担うことができました。

假屋崎 レンガや石づくりのヨーロッパの街並みのなかに、日本の朱色の鳥居が現れて、皆さんびつくりされたんじゃないですか。

塙 中世の城壁に囲まれた美しい街並に菊の花がみごとにマッチし、ドイツ国内だけでなく、隣接しているスイスやフランスから訪れた大勢の方が魅了されました。菊の花という「国際語」を通してさまざまな人たちが結ばれ

假屋崎省吾 氏 Shogo Kariyazaki

華道家。假屋崎省吾 花・ブーケ教室主宰。美輪明宏氏より「美をつむぎ出す手を持つ人」と評され、繊細かつ大胆な作風と独特の色彩感覚には定評がある。近年では新たな取り組みとして、花と建造物のコラボレートとなる個展「歴史的建造物に挑む」シリーズも開催。これまでに、福岡県飯塚市「旧伊藤伝右衛門邸」、佐賀県鹿島市「肥前浜酒蔵通り」、大分県日田市「重要文化財 草野本家」、奈良県奈良市「国宝 霊山寺」、長野県軽井沢町「軽井沢タリアセン内 旧朝吹登子邸 睡鳩荘」などに行われ好評を博しており、昨年に引き続き、2011年1月8日から2月20日まで、徳島県美馬市「吉田家住宅」、1月14日から2月28日まで、島根県松江市「日本庭園 由志園」、3月10日から3月19日まで、京都府京都市「長楽館」にて開催決定。毎年秋には、目黒雅叙園百段階段での個展「華道家 假屋崎省吾の世界」および「假屋崎省吾 花・ブーケ教室展」が開催され、ライフワークとなっている。また、オランダ キューケンホフ公園での個展、上海万博でのフラワーパフォーマンス、イタリア ローマ国際映画祭でのフラワーインスタレーション、フランス パリのプティ・パレ宮殿にて個展を開催するなど国際的にも評価を得、海外でも目覚ましく活動している。著書に『花筐』『花暦』（メディアファクトリー）、『假屋崎省吾の百花繚乱』『假屋崎省吾の百花繚爛』『假屋崎省吾 一世一代のブーケ』『假屋崎流 夢のかねえ方「ここが大事」を見逃さない』（講談社）、『「花」假屋崎省吾の世界』（山と溪谷社）、『假屋崎省吾的、地球の歩き方 花の都パリを旅する』（ダイヤモンド社）、本人の演奏曲も含む『假屋崎省吾 ロマンティック・クラシック・セレクション』（ソニーミュージック）など他多数。また、新刊として『自分の世界をもちなさいー好きなことがあなたを強くするー』（PHP 研究所）、『花のあるライフスタイルー使える賢い50のヒントー』（河出書房新社）が好評発売中。現在 TBS「中居正広の金曜日のスマたちへ」にレギュラー出演中。

假屋崎省吾 花・ブーケ教室 <http://www.kariyazaki.jp/>
假屋崎省吾 公式携帯サイト <http://kariyazakimobile.jp>



ていることを強く実感しました。観光バスが着くたび街の人が迎えていて、日本人が忘れかけている一期一会的なもてなしの心も感じられました。

假屋崎 十数年前スイスのジュネーブに行った時、各家庭に盆栽が必ずあるというくらいすごい盆栽ブームでした。とても日本びいきのところがあります。パリ市内の公園などに小菊がつくられていたり、懸崖があつたりしました。ホテルでも菊の花がごく多くいけられています。

菊花のなかでも千輪咲きなどは、まさしく伝統文化の職人さんの技を表現する最高のものですね。

塙 ラー市でもつくりたいと試みられたのですが、スポンジに切り花を挿そうとしているので、それじゃダメですと言って、こちらの菊をもつていつてつくり方を教えました。

假屋崎 技術ですね。日本だけのものですか。

塙 菊づくりは

たくさんありますが、花の見方とか育て方が違うんですね。ヨーロッパでは小菊、中菊が多いです。ですから向こうでは大きな菊を見ると驚くわけです。日本も江戸時代までは中菊ばかりでしたが、江戸末期からだんだん大菊に品種改良したわけですね。

假屋崎 江戸時代は特に菊愛好家の大名がいて、独自の品種改良をして競い合うという文化がありました。

塙 肥後菊、伊勢菊、江戸菊等、菊の良さを観る目や感性は日本と向こうでは違います。美しさとか企画力があると喜んで観ていただけです。

假屋崎 ベルギーのブリュッセルでグランプラスという建



います。数本でこんなにすてきな空間に表現する、そういうミニマムな表現方法の文化があると思います。

ライフワーク 目黒雅叙園の個展に 笠間の菊が

塙 先生は実に多方面で活躍されています。

假屋崎 毎年、目黒雅叙園という昭和の竜宮城と呼ばれる歴史的な建築物で、ライフワークとして秋にずっと個展を開催させていただいています。

特に魚樵の間という部屋があります。そこに笠間の菊をいけさせていただいた。これが大評判でした。笠間の菊は最高です。笠間の菊を一人でも多くの人にもっと広めていきたいと思っています。

笠間市の皆さんと交流を深めさせていただいて、菊の時期はこうして花を通して文化を発信して、そして平



和についてみんなで考える、それはとても大切なことだなと思います。

塙 先生はまた多くの歴史的建築物との花のコラボレーションにも取り組んでいらっしゃいますね。

假屋崎 歴史的建築物に挑むという仕事をずっとやっています。国内はもちろん、海外にも歴史的な建築物がたくさんあります。特に私は

ドイツが大好きで、ノイシュバンシュタイン城、リンダーホフ城、ヘレムキンムゼイ城など、ルートヴィヒ二世が建てた建物が大好きです。ここでも笠間の菊をいけてみたいです。

塙 作品に向かう先生の様子を見ていますと、花とのコミュニケーションを取りながらいけていらっしゃるように思います。

假屋崎 長年やっている、花を持つと、ここにいけるといいとか、あつちがいいとか、左向けてとか、すぐわかるんです。花の精と対話をするような感じになります。

花を愛でる心と 花のパワーを伝える

塙 最後に今後の抱負を聞かせてください。

假屋崎 花は、まず空間があり、花と器といける人たちがあつて、この四つの出会いで成立するものだと思います。植物は自然界で完成

されている美なのですが、それをまた自分の手で新しい美を創造するわけです。自分分は花をいけるためにこの世に生まれてきて、皆さんに花のパワーをお伝えするのが使命だと思っています。いろいろな場にチャレンジして、一人でも多くの方に花を愛でるやさしい気持ちを育んでもらいたいと思います。

世界の皆さんが仲良く、すてきな出会いをして、幸せに平和で暮らしていったいただきたい、それが究極の願いです。そのために身を粉にして平成の花咲じいとして頑張っていると思います。

塙 菊の花をはじめとして、自然は人々の心をなごめてくれます。私たちは豊かで美しい自然のなかにおかれて初めて心の安らぎを感じ、同時に万物にやどる神霊や神様への感謝の気持ちも現れます。

初夏には藤、秋には菊の香りに包まれる神社の境内で、四季折々に色づく花や

樹々をとおして、皆様に安らぎと文化を発信し続けていこうと考えています。

假屋崎 一年を通して、花を愛でる方々がたくさん笠間稲荷さんにお詣りにいらっしゃると思います。皆さんの健康、幸福をお祈りする仕事をお元気でなさっていただきたいと思っています。

塙 先生もぜひ世界の皆さんのために頑張っていたきたいと思っています。どうもありがとうございました。



笠間稲荷神社 祭事予定

一月



一日 歳旦祭
三日 元始祭
五日 新始祭
十日 初事比羅祭
十五日 古札炎上祭
二十二日 御本殿豊奉納奉告祭
二十五日 末社菅原神社初天神祭

歳旦祭

一日 午後五時

新年を祝い皇室の弥栄と国の隆昌、世界の平和を祈願し、併せて氏子や崇敬者の方々の安泰を祈るお祭りです。境内は大晦日の夜から多くの崇敬者で賑わい、茨城県内の神社仏閣では一番の人出となります。

新始祭

五日 午前十時

大木を用意し、古式装束の大工が儀式を行います。宮大工、建築工事従事者の仕事始めを大神様に奉告し、作業の安全を祈願する神事です。

古札炎上祭

十五日

一年間御守護いただいたお札や、お守りなどご崇敬者より納められたものをお焚き上げて、御神恩に感謝し、一年の無病息災を祈る神事です。

別名「どんど焼き」ともいわれています。



二月



二日 旧大祓式
三日 旧歳旦祭
三日 節分祭追儺式
七日 北方領土返還祈願祭
八日 初午祭
八日 針供養祭
十一日 紀元祭
十四日 祈年祭・初穂講大祭

初午祭

八日 午前七時半

初午祭は、「事始め」「仕事始め」の日として大切にされ、平成二十三年は新暦二月八日・旧暦三月十六日の初午の日に年穀の豊穰と、商工業をはじめすべての物事が発展する事を稲荷の大神様に祈願し、皇室の弥栄と国家の安泰を祈ります。

節分祭追儺式

三日 午後三時・七時

悪疫退散・除災・招福の神事です。拝殿に於いての祭典終了後、境内の特設撒豆台に於いて、撒豆行事司（年男・年女）等の手により、福銭等がまかれます。境内は多くの参拝者で賑わいます。

祈年祭・初穂講大祭

十四日 午前十一時

春に五穀豊穰を祈り、秋には収穫を神様に感謝するお祭りが行われます。この二つのお祭りは神社界において非常に重要なお祭りとしてされており、この春に行われるお祭りを祈年祭といいます。この祈年祭にあわせて稲荷の大神様に奉納する初穂をとりまとめる初穂講の世話人を招いて初穂講大祭も行われます。



三月 四月

三月
十六日
二十日
二十一日
旧初午祭
春季皇霊祭遙拝式
絵馬祭・炎上祭

四月
九日
二十九日
例大祭
昭和祭

絵馬祭 三月二十一日 午後一時

山車、狐の行列、稲荷囃子など賑やかな行列で絵馬を回収しながら氏子区域を巡り、絵馬に託された皆様の御祈願が成就いたしますように祈念する祭典です。

行列後、神社境内に於いて絵馬炎上祭を斎行し、拝殿前にて御焚き上げいたします。併せて、「有名人絵馬展」「絵馬コンクール」も開催され当神社廻廊に展示いたします。

例大祭 四月九日 午前十一時

例大祭は、毎年、笠間稲荷神社御創建の日である四月九日に斎行される、年間を通して最も重要なお祭りです。

御本殿では、大神様に数々の御神饌をお供えし、祝詞を奏上し、皇室の弥栄、国家の繁栄、世界の平和を祈ると共に、氏子・崇敬者の幸福を祈願します。

拝殿では、香道志野流蜂谷宗玄宗匠、茶道江戸千家川上宗雪宗匠による献香・献茶の儀が行われ、茨城県下の酒造家の銘酒奉納による献酒祭も執行されます。



五月 六月



本宮祭

五月十九・二十・二十一日
午前十一時

当社の御祭神・宇迦之御魂大神の御分霊を勧請し、地域の神社や、家庭の守護神としてお祀りされている崇敬者を全国からお招きして、大神様のご加護に感謝すると共に、国家の安泰、各奉祀者の繁栄を祈る大祭です。当社の御分霊は、北海道から九州、さらには海外にまで広くお祀りされております。大祭は春と秋交互に毎年斎行いたしております。

五月

十日

十九日

二十日

二十一日

御田植祭

本宮祭

六月

二十六日

三十日

車の茅の輪くぐり

夏越の大祓式

御田植祭

五月十日 午前十時

御田植祭は、稲荷大神様に毎朝お供えする御食となる稲の苗を植え付け、豊作を祈願する神事です。当社神饌田において斎主以下、神職、舞姫、奉耕者、早乙女等が神饌田に参進し、優雅な舞が奉奏され、玉苗を植える御田植の儀が行われます。

車の茅の輪くぐり

六月二十六日 午前九時

当社外苑の特設祭場に設けられた直径6メートルあまりの日本一大きな茅の輪を自動車でくぐっていただき、ご崇敬皆様の交通安全と事故防止を祈願いたします。どなたでもご参加いただけますので、是非お越し下さい。

【お祓い料】お車一台 壹千円より

夏越の大祓式

六月三十日 午後四時半

大祓は、年に二回、六月と十二月に行われ、六月の大祓を「夏越の大祓」と呼びます。

境内に設けられた茅の輪をくぐり、本格的な夏を前に、無病息災を祈願しましょう。

※大祓の人形・車形の申し込みを希望される方は、笠間稲荷神社崇敬係までご連絡下さい。

【お祓い料】お一人 壹千円より

お車一台 壹千円より



こんにちは、 笠間稲荷です！

那須連山に囲まれ那珂川の上流にたたずむ静かな温泉地・板室温泉。下野の薬湯として知られる同地に、室町時代の一五五一年に創業、江戸時代には会津藩の参勤交代の宿として利用されていたという温泉宿・大黒屋^{だいこくや}があります。

この由緒ある大黒屋と笠間稲荷神社とのご神縁は、「保養とアート」をキーワードに温泉宿へ新しい風を吹き込み、大黒屋を希代の人気旅館へと育て上げた十六代目当主の室井俊二さんのお母様・室井照子さんが遠く和歌山から嫁いで来られた頃に結ばれました。

大阪で働いていた照子さんの元へ、大黒屋で世話になり女将さんからお嫁さん探しを頼まれたとある部隊長さんから、結婚の話が来たのは戦局厳しい時期でした。戦中、まだ交通機関も発達していない時代、二十五歳の照子さんにとって那須の山間は途方もなく遠く、嫁ぐのは勇気のいる決断でした。しかも、夫となる先代当主の勇さんは出征中…しかし「これもご縁でしょうから」と照子さんは汽車を乗り継ぎ、初めて見る深い雪に驚きながら大黒屋へやってきました。



稲荷大神さまのご加護を得て、
伝統を受け継ぎ 更なる挑戦を続ける
「保養とアート」の宿一板室温泉 **大黒屋**

- ① 庭にお祀りされている稲荷大神さま
- ② 「保養とアート」の宿・板室温泉 大黒屋
- ③ 大黒屋先代当主・室井勇さんと照子さん



稲荷大神さまのご神徳を仰ぎ尊び、
日本全国に笠間稲荷神社の
ご崇敬者がいらっしやいます。
ご神縁を結ばれた皆さまの元へ、
神社職員がお伺いします。
今回、ご紹介するのは・・・



4 ご自宅の一室に祀られた当社神札

5 大黒屋現当主・室井俊二さん

その後、病床にあった女将さんの他界や勇さんの再出征等、一人で大黒屋を守るご苦労は大変なものだったと拝察しますが「苦勞と言っても言葉の間違いだけ、あとは和歌山から来たというので珍しがられたことくらい」と明るく話して下さいます。

照子さんが大黒屋へ嫁いだ時には既に、大黒屋本館の金庫の上には石造りのお狐さまが置かれていたそうで、ご自身のお父様もお稲荷さんを信仰していたことから、照子さんもごく自然に稲荷大神さまを心の拠り所としたとのこと。そして、勇さんが終戦により帰還され、お二人で大黒屋を切り盛りされながら、笠間稲荷神社への参拝を始められたといえます。ご自宅を新築なさる際、神棚の他に、最も位の高い部屋を神さまをお祀りする部屋と定めて祭壇を設け、庭にも家の守護神として稲荷社を造られました。

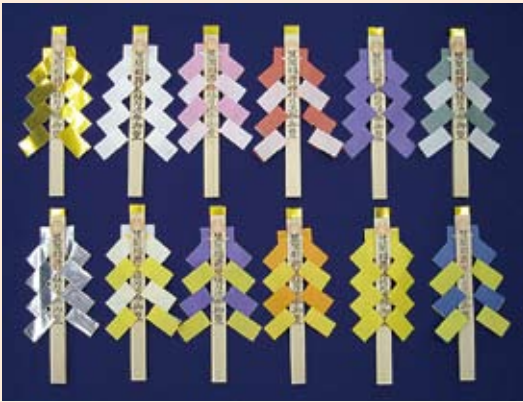
毎朝五時に起き、温泉に入って身を清め、米・酒・塩・水をお供えし、榊を交換し、大神さまへ拝礼することが照子さんの日課で、九十歳を迎えられた今日も欠かすことなく続けられています。「大変だと思ったことは一度もありません。大神さまのおかげで、この年になっても大きな病気ひとつしたことがありませんから」と大神さまのご加護に感謝されています。

月末には庭の稲荷社の清掃も必ず行い、以前は台に乗って手を伸ばしていた高い部分の掃除を「神さまのことは他人に頼んだことはなかったけれど、やっぱり危ないので」と従業員の方をお願いするようになりましたが、従業員の方も「稲荷社の清掃を手伝うと清々しく、お守りいただいていることを実感します」と大神さまのお力を身近に感じていらっしやるようです。

「おかげさまで」という何よりの感謝の気持ちをお大神さまに捧げ、日々ひたむきにお祈りなさっている室井照子さん、そして自然とアートの調和する空間で真心のこもったサービスでお客様をお迎えする大黒屋当主・室井俊二さん、大黒屋従業員の皆様のさらなるご発展とご隆昌、大神さまのご加護をお祈りいたします。

月詣り

当社には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。月詣りとは、毎月には大神様のご加護を受け、前月よりの平穏無事を感謝し、新たなご神徳を頂くことであります。月詣りの方には季節の花の色を表した御幣を授与しております。どの月からでも始められますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



祈祷案内

初宮詣り

初宮詣りは、大神様のご加護により、この世に生を受けた事への感謝と、新生児が無事に生育する事を祈念する人生儀礼です。男の子が生後三十一日、女の子が生後三十二日目に詣るのが一般的となっておりますが、ご家族がお揃いになる良き日をお選びになりお詣り下さい。

(初穂料 五千元より)



初宮祈祷をお受けの方に
お食い初めの食器(右図)
を差し上げます。

奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致しております。

ご奉納頂ける方は笠間稲荷神社社務所までご相談下さい。また、これまでにご奉納頂きましたご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。



◎奉納者芳名

〔浦安の舞用檜扇〕

杉山 悦子殿

杉山 啓子殿

〔黒三方八台〕

大内 信夫殿

〔朱三方二台〕

大津 英一殿

厚く御礼申し上げます。

笠間稻荷神社の風景

手水舎の十二支



手水舎に十二支の彫刻がある

十二支は古来より月名や方位、時刻を表す符号として使用されてきました。

今年は卯年、卯の方位は東、色は青、季節は春を指し、草木が發生して地を蔽うような状態を表しており、新たに物事を始めるのに良い年です。

手水舎で身を清め神社に昇殿、ご祈禱をして卯年のご利益を得ましょう。

神社のいろいろは

A Q

厄年とはどのような年なのか？
一生を過ごすうえで、身体的・肉体的に変化が起
こりやすい時期、何かにつまずきやすい時期が周
期的にやってきます。それがこの厄年の時期だと
いわれています。

A Q

その厄年にあたる年を
教えて下さい。

本厄にあたるのは
数え年で男性の場
合、二十五・四十
二歳、女性の場合十九・
三十三・三十七歳とな
り、その前後の年を前
厄・後厄といいます。
厄年を無事に乗り切る
為に、ご祈願致しまし
う。また、日常厄は日々
積もる厄の為、厄年で
はない方もご祈願致し
ましょう。

平成23年 厄除表

| | | 前 厄 | 本 厄 | 後 厄 |
|---|---------|--------|--------|--------|
| 男 | 25歳 | 昭和63年生 | 昭和62年生 | 昭和61年生 |
| | 42歳(大厄) | 昭和46年生 | 昭和45年生 | 昭和44年生 |
| 女 | 19歳 | 平成 6年生 | 平成 5年生 | 平成 4年生 |
| | 33歳(大厄) | 昭和55年生 | 昭和54年生 | 昭和53年生 |
| | 37歳 | 昭和51年生 | 昭和50年生 | 昭和49年生 |

A Q

方位除とはどのようなものですか？

方位除に該当する方は、九星による星回りに
おいて、その年凶方にあたる方です。一般に
この方は運氣が低迷し、凶災を受けるといわ
れています。方位除のご祈願をし、今年一年
を無事に乗り越えましょう。

平成23年 方位除表

| 一白 | 三碧 | 四緑 | 七赤 |
|--------|--------|--------|--------|
| 大正 7年生 | 大正 5年生 | 大正 4年生 | 大正10年生 |
| 昭和 2年生 | 大正14年生 | 大正13年生 | 昭和 5年生 |
| 昭和11年生 | 昭和 9年生 | 昭和 8年生 | 昭和14年生 |
| 昭和20年生 | 昭和18年生 | 昭和17年生 | 昭和23年生 |
| 昭和29年生 | 昭和27年生 | 昭和26年生 | 昭和32年生 |
| 昭和38年生 | 昭和36年生 | 昭和35年生 | 昭和41年生 |
| 昭和47年生 | 昭和45年生 | 昭和44年生 | 昭和50年生 |
| 昭和56年生 | 昭和54年生 | 昭和53年生 | 昭和59年生 |
| 平成 2年生 | 昭和63年生 | 昭和62年生 | 平成 5年生 |
| 平成11年生 | 平成 9年生 | 平成 8年生 | 平成14年生 |
| 平成20年生 | 平成18年生 | 平成17年生 | 平成23年生 |

その他、ご質問等ございましたら、神社社務所までお問い合わせ下さい。

笠間稲荷神社社務所 0296(73)0001



笠間稲荷神社

社報「胡桃」No.26 平成23年1月発行 発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001代 FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003ホームページ<http://www.kasama.or.jp/>
Eメールinfo@kasama.or.jp 編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。